

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年 7月 20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101011
法人名	医療法人 厚仁会
事業所名	グループホーム あすなろ
所在地	鹿児島市高麗町21番29号 (電話) 099-251-8686
自己評価作成日	平成29年6月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年7月11日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階に診療所を併設しており医療面での対応が充実しています。立地も市街地にあり利便性が高くご家族様や来訪者の方々に面会がしやすいと喜んでいただいております。また、長年診療所として地域の方々とも交流があり、公園や学校も隣接しており季節を感じながら生活していただいております。入居前には利用者様にも出来るだけ施設を見学していただき、初期の段階から馴染みの関係を作れるように配慮しています。入居後はご自分でできる事はしていただき、できない所を職員がお手伝いしながら、ご自分の望む暮らしが継続できるよう自立支援を行っています。またご自分のお好きな事や趣味を続けながら、楽しみや生きがいにつながるように支援しています。関連施設との合同で餅つきや夏祭りなど年間を通して楽しんでいただいております。年2回の家族交流会では利用者様を中心にご家族様と職員が交流できる時間を持ち、利用者様の思いは勿論、ご家族様の思いも職員全員で共有し、より良い介護につなげています。また職員のスキルアップにも力を入れており、施設内外の研修や資格取得時の協力体制も整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、市街地の閑静な住宅地にあり、目の前には公園、学校、放送局、コンビニエンスストア、関連施設がある。1階は、母体のクリニックになっており2階・3階に各ユニットを配し清潔感があり、掃除も行き届いている。
- 町内会に加入し、回覧板を通じて地域の行事や活動など情報を収集し民生委員との協力関係があり、運営推進会議、避難訓練への参加や地域行事(夏祭り・敬老会・文化祭など)にも参加している。母体のクリニックとの信頼関係が土壌にあるため、ホームも地域に自然に受け入れられており、介護相談を受けたり中学生の職場体験、サマーボランティアなどを受入れや地域の文化祭に作品を出展し利用者と見学に行くのが恒例になっている。また、ホームの夏祭りには地域の方々に来ていただき相互交流している。
- 各ユニットのリビングには、仏壇が設えてあり朝晩、合掌される利用者もあり、信仰される宗教の門徒のご友人の方の面会があったり、お寺参りを支援している。また、これまで大切にしてきた馴染みの人との関係性が途切れることがないよう面会時は居室でゆっくりと歓談していただけるよう心配りしている。
- 母体は、併設したクリニックであり24時間医療連携が図れている。重度化した場合や看取りについても柔軟に取り組んでおり、入所当初から看取りを希望される利用者、家族も多く、管理者は、指針を定め早い段階から十分な話し合いをおこなっているが、今後は文書化についても検討したいと考えている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I . 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも見られるようにホールの目につきやすい場所に掲示しており、カンファレンスや全体会議の時に職員全員で唱和し、共有して実践に繋げている。	理念は、利用者や訪問者に見えやすい共有スペースに掲示してある。また、パンフレットには法人理念とホームの理念も掲載され、年1回理念に触れ職員全員で話し合う機会を設けており、職員に浸透している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板で地域との情報を共有している。地区の中学校の職業体験やサマーボランティア等を受け入れて地域と交流を図っている。	ホームは、地域との関係継続を大切にしており、地域の行事（敬老会、文化祭など）を通じて積極的に交流している。地域とは、母体クリニックを通じて関係性が深く、民生委員との協力体制も築いている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症についての相談やグループホームへの入所相談は出来るだけわかりやすく丁寧に応じるように心がけている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、家族や民生委員、長寿あんしん相談センターの職員の方々に参加していただき、感染対策や災害対策や苦情対応等について、ご意見を伺い改善や質の向上に役立てている。また家族交流会や消防訓練後に会議を行い出席者が偏らないようにしている。	会議は、家族交流会や避難訓練と同時開催するなど、より多くの家族が参加しやすいよう配慮している。また、メンバーには実際に避難訓練を見学してもらうなどして意見交換し会議により多くの参加者との意見交換が可能になるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や事故報告など担当窓口を訪問して情報交換を行っている。	担当者とは、電話や面談にて報告や相談などあり、市主催の研修会へ職員が参加しやすいよう勤務変更するなど配慮している。年1回、介護相談員を受入れており、利用者の意向を踏まえサービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの「身体拘束廃止推進について」を整備して、研修で身体拘束について学習し、身体拘束の弊害や禁止となる具体的な行為を職員全員で共有し合い常に自分のケアを振り返り、身体拘束をしないケアを実践している。	なるべく施錠をせず自由に暮らしていけるよう身体拘束委員会や研修会などで話し合っているが、生命の重みを優先する時もある。夜間帯にセンサーマットを使用される方については、代替性など検討し、身体拘束の弊害についてカンファレンスなどで話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で高齢者虐待防止法等について学習し、虐待の具体的な内容や発見時の対応など職員全員で共有し合い、虐待防止への意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに日常生活自立支援制度や成年後見人について説明している。利用の相談等は管理者を中心に対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、改定時は随時、内容を声に出しながら説明を行い、理解されたかを確認している。またその都度疑問点が無いかを尋ね、納得しているか確認し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会や運営推進会議等で要望を問いかけたり、ご家族や友人が面会に来られた際は声かけしたり、話しやすい雰囲気を作っている。介護相談員を受け入れ、利用者が外部者へ意見や要望を伝える機会を設けており、出された意見や要望はカンファレンスや申し送りで話し合い改善している。	利用者や家族からは、日々の暮らしの中で、要望や意見を聞き取るようにしている。職員は、介護相談員の情報を元にサービス向上を図ったり、面談時、家族交流会、行事などを通じて家族との関係性を良好に保ち気軽に意見などが出せるよう支援している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議で話し合いを持ち、意見交換を行っている。出された意見や提案は職員全員で話し合いより良い施設を目指している。また相談ごととは個別の面談を行い、適切に助言をしている。	人事考課システムがあり、職員は自己評価を実施し、管理者などと一緒に話し合っている。管理者は、職員と個人面談するなどして意見や提案などを聞き働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が有給休暇など気兼ねなく取得できるように労働環境を整備し、スキルアップにも理解を示し、各自の向上心を大切に思い援助している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員研修を行い、介護の質を高めるように努めている。外部の研修にも参加する機会を作り、参加した職員が中心になり次の研修へつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループの管理者と事例検討を行うなどして質の向上に役立てている。また、職員同士の交流を図り、介護の質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学をしていただき、情報収集を行いながら利用者の希望や困りごと、不安を聞き取り要望に応え、安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や困りごと不安などをお聴きし、疑問点には丁寧に答え、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、早急な対応が必要かどうか、利用者やご家族の思いや状況を確認し、その方にとって必要なサービスを柔軟に検討し、必要があれば他のサービス等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者はともに生活する者同士であり、人生の先輩であることを理解しており、利用者の出来る事、出来ない事を見極め、お互いが支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の機会を作っていただき、家族にしかできない情緒面でのケアをお願いしており、利用者が安心して生活できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人が自由に面会ができて、馴染みの美容室や食堂、お墓参りなど、これまでの関係が途切れることなく継続できるように支援している。	宗教関係の方や元同僚の方が面会に来られる方があり、訪問時は居室でゆっくりとお茶をしながら歓談ができるよう支援している。また、利用者の誕生日には、本人が希望する場所に家族と外出できるよう取り組んでいる。携帯電話を所持している方々がおられいつでも自由に電話をかけ関係性が途切れることがないように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士が交流する中で良好な関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談に応じる事を伝えており、入院先へ状態を見に行ったり、電話をもらったりして、相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる方は本人や家族から直接、思いや希望する暮らし方をお聞きしている。困難な方は日々のかかわりの中で思いや希望を汲み取り職員間で共有している。	職員は、利用者の思いを汲み取り、意向に沿うよう利用者に寄り添い、家族にも本人の意向を聞き取り互いが情報を共有するなどして本人や家族が望む暮らしの実現に向けて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者や家族、関係者から情報を得ている。入居後も折にふれご本人から今までの生活状況やサービスの利用等を聴き把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとりひとりの生活のリズムや心身状態の把握に努め、現状に沿った生活が出来るように支援している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で利用者、家族、職員、主治医が利用者がよりよく暮らすための介護方針を話し合い、介護計画が現状に合ったものであるかを期間を決めて検討している。	アセスメントやモニタリングは、担当割になっている。「課題整理総括表」を活用することで利用者の状態像が明確になりアセスメント情報が整理され課題などが浮き彫りになると同時にこのツールを活用することにより利用者自身が理解しアセスメント情報などが共有しやすくなった。職員は、本人や家族の意向に沿った介護計画を作成し本人本位に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々の気づきを業務日誌、ケース記録、申し送りノート等に記載し、その内容や情報をケアカンファレンスで話し合い結果を職員全員で共有し、介護の実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の介助や買い物など利用者や家族の希望や状況に臨機応変に対応し、利用者や家族の満足が得られるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して生活できるように地域の民生委員や町内会長さん、警察、消防署に協力をお願いしている。荒田小地区の文化祭に作品を出品し地域と交流出来るように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医や診察内容の希望を伺い、利用者や家族の意向に沿うように努めている。また、初診時は施設から職員が同行して適切な治療が受けられるように主治医に情報提供を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、家族に定期受診を支援してもらったり、職員が同行するなどしている。薬剤師との連携、夜間帯は看護師、主治医とは24時間医療連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1 F に診療所があるので、血圧や体温の異変時には、すぐに連絡できる体制をとっている。また夜間や緊急時も担当看護師や主治医に連絡ができ、相談や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、看護サマリーや薬剤情報を提供して医療がスムーズに行われるように努めている。また、担当医の説明には家族の同意を得て同席し、退院支援にも早い段階からかかわるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に係る対応の指針を定めており、利用者の状態の変化に伴い随時、家族と話し合いを持っている。施設が対応しうる介護の内容についても説明し、同意を得て主治医と連携を図り看取りも行っている。	看取りを希望される利用者、家族が多く、契約時に「重度化や終末期に係る対応の指針」にて説明し同意をいただいている。これまでに6件の看取りを経験しており、現在も取り組んでいるところである。管理者は、重度化した場合の具体的な意志確認を文書化する必要があると考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や応急処置のマニュアル作成や研修を行っている。研修には看護師も同席し、より実践的な対応が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、風水害のマニュアルを作成し、火災は年2回、地震、風水害は年1回避難訓練を行っている。また年2回の消防訓練には地域の町内会長、民生委員に参加してもらい地域の協力をもらえるように取り組んでいる。	地域の協力体制があり、年1回は災害訓練、年2回は昼夜想定で避難訓練を実施している。また、職員は日常業務の中で、ガスの元確認、消火器点検チェック、電源・コンセントチェックなどを毎日確認している。また、水やインスタント食品などの備蓄があり、カセットコンロを備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時など何気ない誘導を心がけプライバシーの確保や個人の人格を尊重するように配慮している。利用者はともに生活する家族であり人生の先輩であることを忘れず、常に尊敬の気持ちを持ち、プライドを傷つけないような声かけを行っている。	職員は、居室に入る際はノックしてから入室するように徹底している。個人情報取り扱いに留意し、プライバシーに配慮したケアの実践に取り組んでいる。言葉かけは、利用者一人ひとりに合う言葉使いを共通認識し誇りや人格を損ねないよう留意してサービスを提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望に理解を示し、何事も利用者の気持ちを最優先し、利用者が自分で決めて納得のいく生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間はある程度決められているが、それ以外は利用者のペースで生活していただいている。また行事参加やレクリエーション等は利用者の意向を尊重しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日、服やアクセサリなど自分で選んで身に付けてもらっている。定期的に訪問美容室や行きつけの美容室を利用して、好きな髪形を楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、旬の食材を使い行事食などメニューにも工夫を凝らしている。献立を一緒に決めたり、下ごしらえや後片付けを手伝ってもらっている。職員も同じテーブルを囲み食事を一緒に楽しむようにしている。また、家族との外食も楽しんでいる。	献立は、担当職員がその日に作成、旬の食材で嗜好に配慮した献立や食事形態を考慮し、特に薄味とかにこだわらず本来の食材の味を活かし家庭的な料理を提供している。敬老会にはお弁当、行事食（父の日、母の日、誕生日など）を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は利用者ごとに記録し、定期的な体重測定や毎日の排泄状態を見ながら健康状態を把握している。水分摂取が困難な場合はゼリーにするなど工夫して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い職員が傍で見守り、綺麗になったかをひとりひとり確認している。一人で出来ない方は職員が義歯と口の中を綺麗に磨いている。義歯は職員が預かり毎日洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表等で利用者の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や声かけでトイレでの排泄が出来るように支援している。	現在は、ポータブルトイレを使用される方はおられず職員がトイレ誘導したり、適時おむつ交換をして排泄支援をおこなっている。また、「水分チェック表」「排泄チェック表」を参考にし、排泄のリズムを把握し、おむつへの排泄をなるべく減らせるよう排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便や水分摂取量のチェックを行い定期的な排泄があるように努めている。また、日頃から繊維質の多い食材や乳製品など多く摂るように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日は決めてあるが、利用者の希望で臨機応変に対応している。入浴方法も見守りだけの方や全介助や部分介助が必要な方など入居者の状態に応じた支援をしている。また、重度化への対応として特殊浴も備えている。	2階には、機械浴が設置され3階はユニットバスであるが、利用者の身体状況に応じて入浴方法を検討するなど選択肢に奥行があることが利用者や職員の安心感にも繋がっている。浴室前には、入浴順が記された案内が掲示され、同性介助を希望される利用者にも配慮し柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて、ご自分のペースで横になっていただいている。昼間は出来るだけ活動してもらい、夜は良眠していただくように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで薬の内容や用量、用法を確認できるようにしている。薬の処方の変更は業務日誌に記録し職員全員が情報を共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な事、好きな事を本人や家族から情報収集しており手伝い等、施設での役割を持ってもらっている。また、趣味や好きな事をレクリエーションで取り上げひとりひとりの生活に楽しみが持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて散歩や買い物等、出かけている。また、家族との夕食やお墓参り、馴染みの美容室や自宅への外出などの機会が持てるように支援している。	ホーム前の公園を散歩したり、コンビニエンスストアに職員と買い物に行かれる方がある。年間行事計画を立てお寺参りや花見、ドライブなどは車いす対応車両にて本人の希望や体調を考慮して無理のない外出支援を実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望により本人でお金の管理をしていただき、買い物が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている利用者は自由に電話が出来る状態である。また本人が希望すれば、施設から電話を取り次いだりしている。手紙も書かれた時は投函するなどの支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施主全体を清潔に保ち、カーテン等も落ち着いた色を選び、過ごしやすい空間を作れるように配慮している。また、室内に自節の飾り物や花を飾り季節感を感じてもらえるように工夫している。	2階・3階にユニットがあり、いつでも清潔感があり掃除も行き届いている。リビングには仏壇スペースがあって朝晩合掌するのが日課になっている。また、数人がけのソファがあり、利用者がテーブルを囲むよう設えてあるため自然と語らいがこぼれてくるような家庭的な雰囲気であり居心地よく過ごせる工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、そこで気の合う者同士で過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた家具などを持ってきていただくようお願いしており、自由に利用者が好みのもので部屋を飾られ、居心地の良い空間を作っている。	ご夫婦で入居されている方があり、マッサージチェアに座りながらテレビ鑑賞したり、家族写真や好きな芸能人の写真が飾られ個性的な居室がありベットと洗面台は備え付けである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室など手すりを付けており安全に移動できるように配慮されている。施設内に段差が無くバリアフリーになっており車イスの方もスムーズに移動できるようになっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない